

## 情報処理科

### 「簿記」学習指導案

実習生：

1. 日時 令和5年5月25日(木) 1限目
2. 学年・組 1年13組
3. 場所 本館4F 1年13組教室
4. 単元名 商品売買の取引 3分法 (第2編 第12章)
5. 使用教材 『簿記』(TAC株式会社)  
『反復式 簿記問題集 全商3級』(実教出版)

#### 6. 単元目標

- ・ 3分法を活用した商品売買の仕訳を適切に行えるようにする。

#### 7. 生徒観

本学級は明るく元気な生徒が多く、こちらからの問いかけに対しても反応を示してしてくれる。学習内容の理解にかかるスピードに差はあるものの、問題演習等においては生徒同士で教え合い、理解を深めることができる学級である。そのため、本時の授業でも問題演習時の机間指導に加え、生徒同士での教え合い活動を促していきたいと考えている。

#### 8. 教材観

本教材は簿記の基本を簡潔な文章で説明されている。また、随所で図や表が用いられており、視覚で理解することもできる。加えて、各単元で複数の例題と解き方の順序や解説が記述されているため、学んだ知識をすぐに使える知識にすることができる教材であると考えられる。また、問題集では検定を意識した問題にも取り組むことができ、生徒の検定合格への意識を高めることができると考える。

#### 9. 指導観

3分法を活用した商品売買取引の適切な仕訳ができる力を身につけたい。これまでに学習した分記法との繋がりも大切にしたいと考えている。そこで、導入部分で分記法の内容を改めて確認し、分記法の弱点を把握する。その弱点を解消するために3分法が存在するということを伝えたい。その上で、今後の商品売買取引でベースとなる3分法の基礎の仕訳が適切に行えるようにしたい。生徒が混乱しやすい単元であると思われるので、丁寧かつ簡潔な説明を心がける。

## 10. 単元の評価基準

観点	【A】 知識・技能	【B】 思考・判断・表現	【C】 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3分法とは何かを知る。</li> <li>・ 3分法を用いた商品売買の会計処理について適切に理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ なぜ3分法では、このような仕訳をするのかについて考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商品売買の取引にはこれまでに学習した分記法以外にも、3分法があることを認識し、関心を持つ。</li> </ul>

### 10. 本時の展開

#### (1) 本時の目標

3分法について理解し、3分法を用いた商品売買の取引を仕訳できるようになる。

#### (2) 本時の評価規準

- ・ 3分法とは何かを理解しようとしている。【C】
- ・ 3分法を用いた商品売買の仕訳ができる。【A】
- ・ 教師の発問に対して自分の考えを持ち、他者に発信することができる。【B】 【C】

#### (3) 学習過程

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準（方法）
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分記法の復習</li> <li>・ 本時の学習目標の提示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商品を販売するたびに商品売買益を計上する分記法の弱点を実生活とリンクさせて、認識させる。</li> <li>・ 分記法の弱点を克服した3分法の処理について学習する旨を伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒を当てて、理解しようとしているかを見る【C】</li> <li>・ 生徒を観察する【C】</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">3分法を活用した商品売買の仕訳を理解しよう！</div>			
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3分法</li> <li>・ 3分法とは仕入（費用）、売上（収益）、繰越商品（資産）の3つの勘定科目を用いて処理する方法。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分記法の時とは違い、3分法では3つの勘定があることをワークシートに記入する形で確認していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒を観察する【A】 【C】</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕入が費用になる理由 →販売するために(=収益を得るために)購入した商品であるため。</li> <li>・仕入時の仕訳方法</li> <li>・売上時の仕訳方法</li>   <li>・ワークシートの練習問題を解く→前後左右の生徒と共有→全体での解答確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの分記法では商品勘定を扱っていたため、商品の仕入=資産の印象が強く、仕入を資産と考える生徒が多いと思われるため、注意深く説明する。</li> <li>・仕入原価には商品本体の金額+引取費用が含まれることを説明する。</li> <li>・売上時に発生する発送費(費用)は、仕入時とは違い、分けて仕訳する必要があることを説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に挙手をさせて、理解しようとしているかを見る【B】【C】</li>   <li>机間指導【A】 (個々の習熟度を確認し、理解度の低い生徒にはサポートをする。)</li> </ul>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>本時の振り返りと今後の商品売買時の取引について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらを導入する方が良いと一概に言えるわけではなく、分記法が向いている会社、3分法が向いている会社があることを説明する。</li> <li>・今後は様々な種類を取り扱う〇〇商店を基本に検定や教科書等では扱っていくので、3分法がメインになってくることを伝える。</li> </ul>	<p>生徒を観察する【C】</p>

(4) 準備物

ワークシート、パワーポイント

(①) …商品の売買を仕入、売上、繰越商品の3つの勘定科目で処理する方法。

仕入 (②) …販売するために商品を購入したとき。「原価」  
売上 (③) …商品を販売したとき。「売価」  
繰越商品 (④) …売れ残った商品。(=在庫)「原価」

### ●商品を仕入れたとき

商品の仕入原価を仕入勘定の借方(左側)に記入。仕入時に発生した引取費用は購入代金に含める。

仕入 = (⑤) + (⑥) (引取運賃など)

【例1】鹿児島商店から次の商品を仕入れ、代金は現金で支払った。

A品 10個 @¥1,000 ¥10,000  
(借) (貸)

【例2】宮崎商店から次の商品を仕入れ、代金は掛けとした。なお引取運賃¥1,000は現金で支払った。

C品 50個 @¥2,000 ¥100,000  
(借) (貸)

### ●商品を売り渡したとき

商品の販売価格(=売価)を売上勘定の貸方(右側)に記入。商品を売り渡す際に支払った発送運賃などは発送費勘定の借方(左側)に記入。

【例3】熊本商店に次の商品を売り渡し、代金は掛けとした。

A品 5個 @¥2,000 ¥10,000  
(借) (貸)

【例4】福岡商店に次の商品を売り渡し、代金は掛けとした。なお発送費¥2,000は現金で支払った。

C品 10個 @¥4,000 ¥40,000  
(借) (貸)

<練習問題 1>

1. 佐藤商店から次の商品を仕入れ、代金は現金で支払った。

A 品 50 個 @ ¥2,000 ¥100,000

(借)

(貸)

2. 道宮商店に次の商品を売り渡し、代金は掛けとした。

A 品 40 個 @ ¥3,500 ¥140,000

B 品 20 個 @ ¥2,000 ¥40,000

(借)

(貸)

3. 岡元商店から次の商品を仕入れ、代金は掛けとした。なお、引取運賃 ¥10,000 は現金で支払った。

C 品 100 個 @ ¥5,000 ¥500,000

(借)

(貸)

4. 大山商店に次の商品を売り渡し、代金は掛けとした。なお発送費 ¥5,000 は現金で支払った。

C 品 50 個 @ ¥8,000 ¥400,000

(借)

(貸)